第46号
発　行
筑波山がまの油売り口上研究会

さぁ～さぁ～お立ち会い： おなじみの口上の始まり。いろんな人が個性豊かに演じるがまの油売り口上。覚えるために何度もひっくり返したテキスト。読むほどに、その口上文が良くできていると感心された方も多いのではないか？
では、この口上文をいったい誰が考えたのか？
そんな素朴な疑問を林会長に答えていただきました。

ガマの油のルーツと口上文について

筑波山とガマの油の結びつきの起源を辿れば、話は江戸時代初期までさかのぼる。徳川家康は、筑波山が江戸城の鬼門の方角にあたることから、徳川家の祈願所と定め、知足院中禅寺に寺領五百石を寄付した。

その二代目住職の光譽上人が、大坂冬の陣・夏の陣に徳川軍の従軍僧として参加した時のことである。上人は陣中で、戦勝祈願をしたり、戦死者の供養などをしながら、負傷者の救護もしていたので、徳川軍の兵士から大変に喜ばれていた。手当には、上人が持っていた自家製の不思議な膏薬を用いたという。これを塗ると出血はピタリと止まり、痛みもスーツとひいて回復が早かったそうである。その膏薬は『ガマ上人の油薬』と呼ばれるようになった。以来ガマの油は、陣中で使われた膏薬、すなわち「陣中膏ガマの油」として、筑波山にデビューし、山の旅籠や茶店でも、筑波山名物として貝殻に詰めて売られるようになったというのがガマの油のルーツとされる。

このように口上の起源は江戸時代にさかのぼるものとされるが、筑波山名物としての「ガマの油」が筑波山に現れるのは戦後のことなのである。昭和二十三年（１９４８）に、筑波山観光協会が観光の振興策として、最初の「がま供養祭」を催した。現在行われている「ガマまつり」の前身である。この「がま供養祭」の余興には落語家の春風亭柳橋が呼ばれ「がまの油」を演じている。これが現在に続く口上の始まりなのである。地元でもこれをきっかけに口上の練習が始まり、昭和三十二年（１９５７）ごろ、畳職人であった稲葉卯之吉氏が「第十七代永井兵助」を名乗り、宴会の余興などで演じるようになった。稲葉氏が、なぜ十七代を名乗るようになったのか、その経緯ははっきりしていない。その後、岡野寛人氏が第十八代目を襲名している。この両名がテレビやラジオに出演することで「筑波山のガマ」を全国に広めたといっても過言ではない。私も、昭和四十一年（１９６６）に岡野氏の一番弟子として指導を受けて現在に至っている。

筑波山麓地方では、ガマの油売り口上の元祖を、一般的に“永井兵助”として伝えており、前述の稲葉氏・岡野氏によって、口上文を落語から抜き取り、現在の形に確立した。ただ、落語調のガマ口上は、長文であると同時に、京都や大坂などで活躍した人形の細工師や比良の暮雪や嵐山には落花吹雪など、いかにも口上のルーツが関西であるかのような文言が随所に出てくる。この口上文は、現在でも正調として筑波山ガマ口上保存会によって受け継がれている。

当研究会が**「がまの油売り口上講座」**で使用しているテキストの口上文は、昭和四十九年（１９７４）に本県で開催された「茨城国体」の開会式アトラクションで、岡野氏をメインに当時の筑波小学校の児童が出演することとなったことがきっかけで見直したものである。

これまでの落語調の口上文は、長文かつ分かりづらい言葉や人名などが随所に出てくることから、筑波山観光協会の役員数名に、岡野氏と林も加わり、口上文全体を見直し、国体会場の観客をはじめその後の各種イベント等での観光客にも、分かりやすく、覚えやすく、楽しんでいただけるように改めたものである。当研究会では、この時の口上文を、現在でも講座のテキストとして使用している。

【引用・参考文献】
CROSS T&T No.55
「筑波山と土浦のガマの油」
（林　正一著）

下呂にて

水戸教室　尾形志次男

旅の楽しみ数々あれど、カエルに反応するのはがま研会員の性か？思わず行ってみたくなる加恵瑠神社とは？

古い話になってしまいますが、昨年の十一月に岐阜市での用事の帰りに、家内と共に日本三名泉の一つ、下呂温泉に寄ってみました。

下呂温泉はカエルをモチーフにした街興しをしており、加恵瑠神社もあるということで寄ることにしたものです。

電車で下呂駅に着いた後に早速、加恵瑠神社に行ってみました。この神社は下呂市が平成二十二年に建てたもので、人通りの多いところにありました。この神社の縁起はそれなりに書いてありましたが、ここでは省略します。尚、カエルを祀った神社は全国で唯一であるとのこと。

加恵瑠神社

神社への参拝者は平日にも拘わらず結構多く、人気があることが分かりました。又、お参りの状況を見ていたら、賽銭を入れて鈴を鳴らすと、女性の声で一人一人に「お告げ」があることが分かりました。これは面白いと私達もやってみましたが、先に百円玉を入れた私にはお告げなし。次に百円玉を入れた家内には「きっとあなたに幸せが微笑みカエルでしょう」とのお告げあり。どうして私にはお告げがなかったのか？　家内は賽銭の入れ方が悪かったからだと云うが腑に落ちず、他の参拝客の観察をしてみることにしました。その結果は？

(1)お告げは次の三通りがランダムに流れる。

①きっとあなたに幸せが微笑みカエルでしょう

②「あなたはこれからもきっとお金で溢れカエルでしょう」

③「あなたは益々若ガエルでしょう」

(2)十回に一回程度、私の時と同じようにお告げのない時がある。但しこの時に再び賽銭を入れる人はいなかった。

(3)お告げを聞いた老若男女の人達は皆、楽しそうに笑って帰って行った。

観察が終わった後に「お告げがないのはわざとそうしているのか」「紙幣の場合もお告げはあるのか」「賽銭は一日にどれくらい集まるのか」「それにしてもお金を出させて笑顔で帰させるアイデアは大したものだ」などと考えたりしたが、バチが当たるかも知れないので、考えるのはやめてホテルに向かうことに。その途中、色々な場所にカエルが存在していました。（写真A・B）ホテルに着いたら玄関やロビーで当然のようにカエルがお出迎え。

A

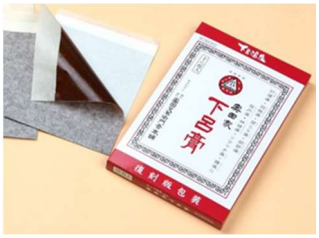
翌朝ホテルの売店をうろついてみましたが、カエルのグッズ類は興味のないものばかり。目につくのは飛騨名物のさるぼぼ人形。

B

ここの売店では、水戸教室のメンバー用に「ゲロゲロ饅頭」を買い下呂駅へ。

温泉は有名なのだから温泉エキスとカエルを組み合わせた「がまの油」みたいなものはないか？と駅構内や駅前の売店を覗いてみたら「下呂膏」というものを売っていました。但し、温泉やカエルとは一切関係なし。子供の頃に使った貼付け膏薬です。今でもあるんだなと思っただけでこれは買わないで帰宅。が、気になって帰宅してからネットで調べてみたらトクホンやサロンパスに完全にとって代わられた訳ではなく愛好者もいることが分かりました。

下呂膏は接骨医、奥田家の家伝薬として江戸時代後期から全国的に知られるようになった。美濃和紙に塗り付けた膏薬で現在でも多くのネット販社で取扱っており、海外にも愛好者がいる由。がまの油も膏薬の一種ではあるが軟膏。一般的には膏薬と云えば硬膏を塗った貼り薬のことを指すそうで効能はほぼ同様。しかしどちらかと云えばガマの油は外傷や皮膚病用、膏薬は皮膚病や消炎鎮痛用ではないか。



下呂膏

思わぬところで膏薬の勉強を少しはすることになりましたが、これも下呂に行ったから。やはり出歩かないと「とんと世の中のことが分らない」でしょうかね。

口上道具制作綴り

小町塾　青田　忍

今年もユニークな新人をお迎えしました！

当方、昔から多趣味でその内容の一部として、二輪・四輪のレース参加、カヌーボートで川下り日本野鳥の会会員、イベント会場での飲食出店、等身大キャラクターの着ぐるみ作製、演劇・映画鑑賞、コンサート鑑賞（ロック・ジャズ）等。大道芸体験：チンドン屋・腹話術・紙芝居。収集：洋楽を中心にLPレコード五百枚以上、昭和レトログッズなど多数。

某歌声喫茶でハーモニカやパーカッションで演奏参加をしていたところ、コロナ渦で活動中止になり、他のことを捜していたなか、がま口上講座を受講させていただきました。

以前筑波山のがまの油売り口上は見たことがあり、その歴史や芸に深く感銘を受けた次第です。口上のスタイルは自由という事なので、落語など演者によってイメージが変わるので、自分だったらどう表現するかと妄想が膨らみました。

幼少時より色々と創作活動を行い（食堂の看板！）、学生の頃は美術部にも所属していたので、道具入れの木箱からとり掛かりました。

生憎見本の茶箱は高額の為、蓋付きダンボルに木目シート、ミラーシート、金網、プラ板、切り文字などを貼り付け、千両箱風に作成。

『カエル』はあちこち探しましたが、これと言って見あたらないので、カラー粘土を使って四〇センチ大のフィギアの出来上がり。写真の陣太鼓は、中古のタンバリンにカラーシートを貼り付け改造。刀剣は伝家の宝刀なので、ここは奮発して某直販会社の『新選組、土方歳三モデル』を購入。幟と口上台に掛ける垂れ幕は、デザイン決定後、幟の専門会社に依頼を予定。衣装…は、口上が上がらず、とちらずに実演できる迄には取り揃えたいと思います。

先輩方の味わいのある口上を見習っていきたいので、どうか宜しくお願いいたします。

令和５年度

「がまの売り口上講座」

日程　①　9月16日㈯
　　②　9月30日㈯
　　③10月14日㈯
　　④10月28日㈯　　計４回
時間　午前10時～正午
会場　土浦市立小町の館
募集　30名
　　（3回以上の出席で修了証を発行）
申込　林会長（午後7時～9時）
　　☎029（862）3629

＊新聞他に募集記事を掲載依頼中ですが、興味をお持ちの方があれば、是非お誘いください。

令和５年度　定　期　総　会　余話

例年を超える参加者が集った今年の総会、お目当ては講演『浪曲』であったかも知れない。

会員でもある中村和正氏に、おなじみの演目の「金毘羅代参」＋「三十石船道中」を熱演していただいた。感動と共に、中村氏なら口上文を覚えるくらい何でも無いことだろうと納得した次第。（5月20日）

←卓上の松もご自身が丹精

歴史探訪会

「茨城県立歴史館と偕楽園」を訪ねて

好天の六月十七日、歴史に触れ静かな園内を散策しました。無料の駐車場は広く、観梅の時期を外しても素敵な場所と知りました。徳川斉昭が領民と偕に楽しむ場にしたいと創設したそうで、お弁当持ちでゆくり出かけるのも楽しそうです

筑波の大仏様は 今いずこに・・・④

佐藤貞弘

「昔あったあれは今どうなっているのだろうか」

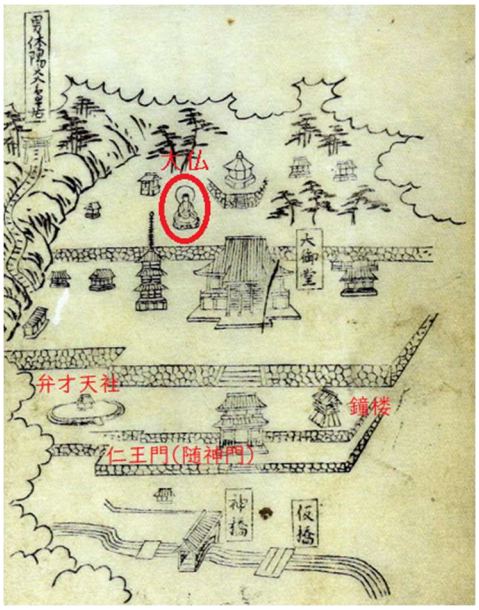
シリーズの第五弾。

昔あったあれは今どうなっているのだろうか。筑波山に関連するものを中心に軽～く紹介します。

神仏一体の御山筑波山に、一六〇二年(慶長７年)徳川家康は江戸城の鬼門を守護するため、知足院中禅寺を徳川将軍家の祈願所と定めた。

一六三三年(寛永10年)には徳川三代将軍家光により本堂(大御堂・千手堂)を中心にたくさんの仏堂が建立されて数多くの仏像が安置され、成田山新勝寺、日光東照宮と共に一大観光地として賑わってきたという。

それが明治の廃仏毀釈で中禅寺が廃された為、そのほとんどの仏像・仏具が破却され、撤去されたりしたが、知足院中禅寺由来の仏像等を守り伝えてきた寺院がある。その一つ、東京の護国寺(文京区大塚五-四〇-一)に移された仏像等を三回に分けて紹介します。



筑波山名跡誌より

護国寺の仁王門、不老門をくぐり一段高い護国寺観音堂を正面に見る参道に至ると、その右側には大仏様と呼ばれた銅造り**「釈迦如来坐像」**一七二七年(享保12年)が柔和な眼差しで迎えてくれる。大仏様の大きさは坐像なので丈六仏の半分、約二メートルである。

次回以降、多宝塔(瑜祇塔:ゆぎとう)、地蔵菩薩立像、金剛力士像を取上げます。なお、破却された大御堂の跡地には一八七五年(明治８年)に筑波山神社拝殿が建立され、一九二八年(昭和３年)に増築改修されたものが現在の建物になります。

忘年会は中止になります

コロナは５類に移行し、マスクの着用や外出も個人の判断となりましたが、相変わらず感染は続いています。
高齢者の行動は慎重を期す必要があり、大事をとって今年も中止となりました。

編集後記

朝、目を覚まし窓を開け放つ…。わぁ、やっぱりダメだ！」今日も肌にへばりつくような熱気が残っている。猛暑日の記録更新、畑の作物ばかりか草さえ元気がない。一たび雨が降れば洪水の騒ぎ、海外では島を焼き尽くさんばかりの火災。地球よ、お前はどうしたのだ？と問いたくなる。過酷な暑さのなか、会員の皆様は変わりなくお過ごしでしょうか？

稲穂はしっかり穂を垂れて収穫の日を待っています。我々の活動の日も近いと思われます。どうぞご自愛ください。口上講座周知の為、いつもより少し早いお届です。

次号の原稿は二月末までにご投稿いただければ嬉しく思います。手書き・郵送（田神宛）・メールなど、どんな形式でも結構です。

編集子

メール投稿先
tgod6474@i-next.ne.jp
がま研ホームページ
http://gamaken.wp.xdomain.jp/